

津南町の挑戦 医療を軸に 『人が育つ』地域をつくる

地方創生対話フォーラム

～総合診療医が触媒となる地域再生への道～

人口減少と高齢化が進む津南町では、医療と地域経営の構造転換が必要です。

本フォーラムでは「人を育てる」のではなく、「人が育つ構造を地域と医療現場につくる」という視点から、総合診療医を中心とした持続可能な地域づくりについて考えます。

約8,300人

人口

42.6%

高齢化率

-10.4%

5年間人口減少率



ゆき みず だいち
つなんまち

津南町の概要

.....

日本有数の豪雪地帯

人口 8,279人（令和7年10月末現在）
世帯 3,400戸（令和7年10月末現在）
面積 170.21km²
位置 東経138度39 北緯37度

昭和30年1月1日に町村合併促進法により
6か村が合併し、今の津南町が誕生。

年間の1/3が雪に覆われる日本有数の豪雪地帯。

積もった雪は雪解け水として農地を潤すほか、
森に蓄えられて湧水となり、豊かな恵みをもたらす。

名水100選に選ばれた「龍ヶ窪」は1日ですべての水が入れ替わるほど湧水が豊富で、決して濁ることなく、大切に守られている。

津南町の川と火山が作った独特の地形や、根差した歴史・文化が「苗場山麓ジオパーク」として認定されている。



津南町の 現状と課題

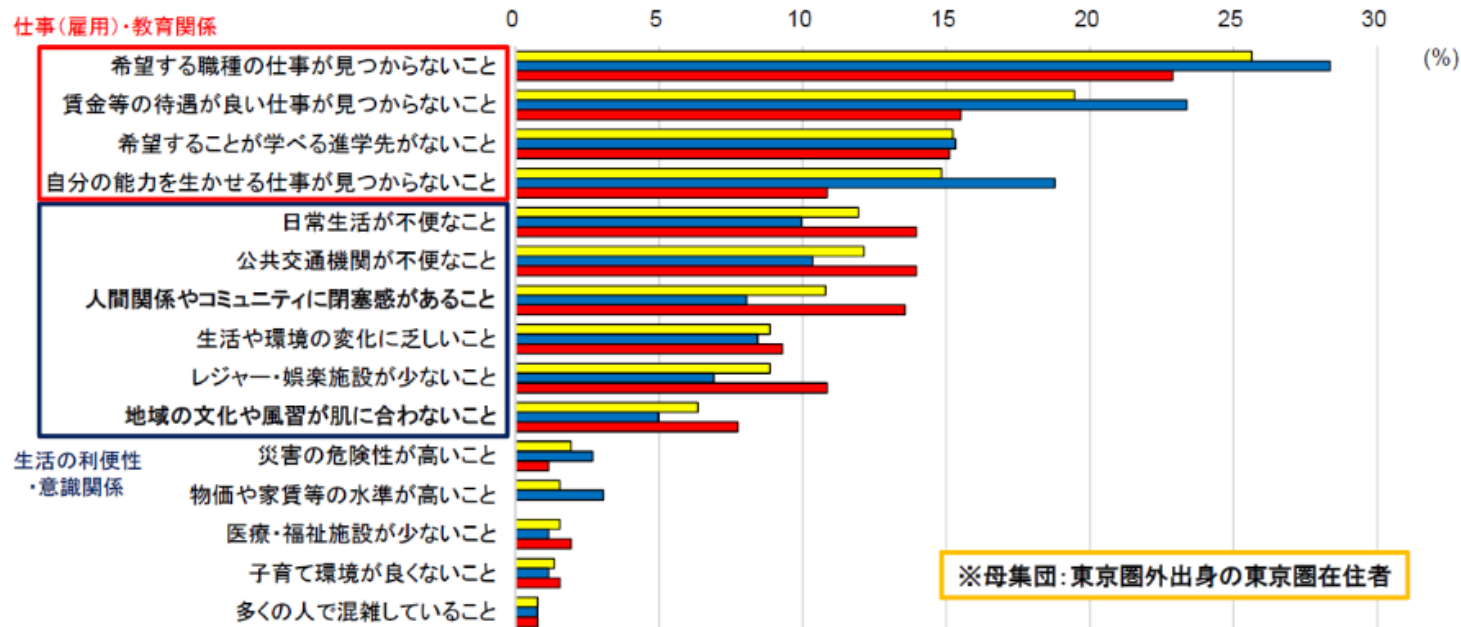
「地方」が直面する問題

若者が離れる理由

-  少子高齢化、人口減少 ⇒ 生活の利便性・意識問題
仕事（雇用）・教育問題
-  人は来るけど、すぐに出ていく ⇒ 生活の利便性・意識問題
-  面白い、魅力的な仕事がない ⇒ 仕事（雇用）・教育問題

- 東京圏への移住の背景となった地元事情としては、「仕事」や「進学先」関係の割合が全体的に高い。
- また、生活における「利便性」や「娯楽」、「閉塞感」等と回答する人も一定数存在し、特に女性においてその傾向は強い。

Q あなたが地元に残らずに移住することを選択した背景となった事情として、あなたの地元にあてはまるものを全てお選びください。



※母集団：東京圏外出身の東京圏在住者

※「その他」の回答を除く。

※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

■ 全体 (n=519)
 ■ 男性 (n=261)
 ■ 女性 (n=258)

若手医師が 実践する 「二地域居住」

.....

津南病院
新しい地域医療の形



津南病院での実践事例

2023年から県外出身の若手医師2名が津南町の医療に参画。東京大学・大阪大学出身の医師が地域医療の課題解決に取り組んでいます。

二地域居住による新しい働き方モデル

月曜

火曜

水曜

木曜

金曜

週3日は津南町で外来・病棟診療に従事
週2日は首都圏でコンサルティングや研修に参加



双方向の価値創出

都市部の先進医療知識を地域に還元しながら、経営コンサルタントとしての知見を活かして病院経営にも参画。地域医療の担い手確保と若手医師のキャリア形成を両立



柔軟な勤務体制の実現

「医師不足が深刻な地域病院」と「キャリア発展を望む若手医師」をマッチング。

自治体が柔軟な働き方を支援し、地域医療体制の持続性を高める

<https://www.youtube.com/watch?v=PZkVQl1jPyo>

03. 総合診療医が地域医療の『基盤』を支える

1

マルチモビディティへの包括的対応

高齢者に多い複数疾患の併存に一元的に対応し、診療科間の「たらい回し」を防止

2

医療人材の効率的配置とコスト抑制

臓器別専門医の過剰配置を避け、限られた医療資源を有効活用して人件費高騰を抑制

3

初期診療・トリアージ機能の最適化

適切な初期対応と振り分けにより、限られた専門医資源を効率的に活用する体制を構築

4

医療と介護・在宅の連続性確保

在宅～施設～病院を縦断的につなぐ、切れ目のない診療・ケアの提供体制を実現

現場に実権を、地域に人が育つ構造を

翻訳者（Translator）としての機能

総合診療医は医療・介護・行政・住民・産業をつなぐ「共通言語」を創出し、専門分野間の壁を越えた対話を可能にします。津南町では医療情報の住民・行政への伝達、行政計画の医療現場実装に貢献しています。

マネージャー（Manager）としての機能

経営推進部会や地域包括ケアの場面で、医療・介護・行政・住民の利害を調整し、実行可能な方針に落とし込む役割を担います。人口減少社会では、誰がハブになるかが地域の持続性を左右します。

津南町では、若手医師に経営や地域医療体制改革の実務を担う機会を積極的に付与。現場が意思決定に関与することで、地域課題解決の主体となり、人が育つ構造を生み出しています。

⇄ 二地域居住モデルによる継続的関与

週3日の地域勤務と週2日の都市部活動の組み合わせにより、医師の専門性向上と地域医療の両立を実現。都市と地方をつなぐ人材が、新たな知見や連携の可能性を地域にもたらします。

医療を軸に『人が育つ地域』を ともにつくる

津南町は、総合診療医の実践と二地域居住モデルによって、
医療と地域の持続可能な発展を模索しています。

鍵は、「人を育てる」のではなく、「人が育つ構造を地域につくる」こと。
現場に実権を委ね、多様な働き方を支えることが、
地域の未来を創る人材戦略の核心です。

医療

人材

地域

制度

医療が変われば、地域が変わる

この挑戦を共有し、各地域・機関での応用を考える契機にしたい

